



## 新年のご挨拶

日本公認会計士協会兵庫会 会長 むらかみ じゅんじ 村上 純二



兵庫会会員・準会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より兵庫会の会務運営にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2025年を振り返りますと、4月から10月まで大阪にて大阪・関西万博が開催されました。半年の開催期間の終盤にさしかかるにつれ長蛇の列が発生し、終わってみると一般来場者が2,500万人を超える国際博覧会となりました。改めて日本の良さ、パワーを感じました。また10月には高市早苗首相が憲政史上初の女性総理に就任され、この影響もあってか日経平均が史上初の50,000円を超えました。海外においては4度目のMVPを受賞した大谷翔平選手等日本人選手の活躍もありロサンゼルス・ドジャースがMLBワールドシリーズを連覇する等、世界中で日本人の活躍が聞こえてきました。今年はサッカーワールドカップも開催されますし、色々なところで「世界の真ん中で咲き誇る日本」を見られるのではないかと思います。一方、身近なところでは地震や悪天候等による災害も多く、また各地で熊による被害も急増しており、日常生活においても環境の急激な変化を改めて感じさせられる一年となりました。

我々の業界においては、2025年3月にサステナビリティ基準委員会（SSBJ）から我が国における最初のサステナビリティ開示基準が公表されました。2027年3月期から時価総額3兆円以上の東証プライム市場上場企業を対象に、SSBJ基準に基づく開示が義務化される予定です。

また、有価証券報告書の総会前開示、株主総会の後倒しと開示書類の一体化・一本化に関する議論も本格化してきたところであり、AIの導入と併せ、会計監査という私たちの業務環境も大きな変化の中にあります。2025年10月に1,636人が公認会計士試験に合格し、仲間が増加傾向にあるのは本当にありがたいところなのですが、先輩となる我々もますます気を引き締めねばと思います。

兵庫会においては昨年6月に坂井浩史前会長よりバトンを引き継ぎ、新執行部となって約半年が経過

しました。新執行部においては副会長を従来の3名から4名とし、また幹事の数も前執行部終了時の22名から28名（うち女性7名）へと増加しており、あらゆる会員の意見を聞くことが出来る体制がより整ったと考えています。地域社会へ貢献すること、様々な領域で活躍する兵庫会会員への業務支援を実施すること、部委員会活動をますます充実させること、協会本部及び関西地区三会との連携を引き続き実施していくこと、等を重点課題として会務運営を進めているところです。

新執行部においては、増加する組織内会計士、社外役員会計士の活動を一層支援できるよう、事業部内にあった組織内会計士専門委員会及び社外役員会計士専門委員会をそれぞれ独立した委員会という位置付けとしました。この半年間においても、姫路にて二日間に亘って行なわれた中日本五会組織内会計士合宿研修は他の地域会からの参加も多く約50名での開催となりました。さらに、兵庫県弁護士会と協力しての社外役員交流会・懇親会や組織内会計士・弁護士の勉強会・懇親会も開催することができました。また、中堅・若手会計士の活動を支援し、会務にも積極的に参加していただけるように「中堅・若手会計士委員会」を設置し、こちらも活動を始めています。2025年11月に厚生部との共催で行われた「明石海峡大橋ブリッジワールド&ランチブッフェ」は幅広い年齢層の参加者があり、気軽な形での世代間交流も行えたのではないかと考えています。

2026年は「丙午（ひのえうま）」の年であり、情熱と行動力にあふれ、大きな飛躍や変化が期待できる年といわれています。会務運営においても、変化を恐れずに大きな飛躍を遂げたいと思います。

兵庫会役員、事務局一同、引き続き会員・準会員の皆様にもっと身近に感じてもらえるような、そして兵庫会の会員・準会員でよかったと思ってもらえるような会務運営に取り組みたいと思います。会員・準会員の皆様にはご理解とご協力、そして温かいご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、皆様の益々のご健勝、ご活躍を祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。